

信長公記  
総目

〔注記〕  
\* 総目各項に該当する本文箇所、総目の見出しを付した。  
\* ( ) 内は角本による。

- 1 巻首（是は信長御入浴無き以前の双紙なり）……………9
- 2 尾張国かみ下わかちの事……………9
- 3 あづき坂合戦の事……………10
- 4 吉法師殿御元服の事……………11
- 5 みのの国へ乱入し五千討死の事……………11
- 6 景清あざ丸刀の事……………12
- 7 大柿の城へ後巻の事……………13
- 8 上總介殿形儀の事……………14
- 9 犬山謀叛企てらるるの事……………15
- 10 備後守病死の事……………16
- 11 山城道三と信長御参会の事……………17
- 12 三の山赤塚合戦の事……………20
- 13 深田松葉両城手かはりの事……………22
- 14 篠田弥次右衛門御忠節の事……………23
- 15 武衛様御生害の事……………24
- 16 柴田権六中市場合戦の事……………25
- 17 村木の取出攻めらるるの事……………26
- 18 織田喜六郎殿御生害の事……………29
- 19 勘十郎殿、林、柴田御敵の事……………31
- 20 三郎五郎殿御謀叛の事……………34
- 21 おどり御張行の事……………35
- 22 天沢長老物がたりの事……………37
- 23 六人衆と云ふ事……………38
- 24 鳴海の城へ御取出の事……………39
- 25 今川義元討死の事……………39
- 26 家康公岡崎の御城へ御引取りの事……………45
- 27 丹羽兵蔵御忠節の事……………46
- 28 蛇かへの事……………49
- 29 火起請御取り候事……………50
- 30 土岐頼藝公の事……………51
- 31 山城道三討死の事……………52
- 32 信長太良より御帰陣の事……………53
- 33 武衛様と吉良殿と御参会の事……………55
- 34 吉良、石橋、武衛三人御国追出しの事……………55
- 35 浮野合戦の事……………56

- 35 岩倉落城の事……………57
- 36 もりべ合戦の事……………57
- 37 十四条合戦の事……………58
- 38 お久地惣構へ破るの事……………58
- 39 二宮山御こしあるべきの事……………59
- 40 加治田の城御身方に参る事……………59
- 41 犬山両おとな御忠節の事……………60
- 42 濃州伊木山へ御上りの事……………60
- 43 堂洞取出攻めらるるの事……………61
- 44 いなば山御取り候事……………62
- 45 公方様御憑み百ヶ日の内に天下仰付けられ候事……………63
- 46 卷一（永祿十一年戊辰以来織田弾正忠信長公の御在世、且は之を記す）……………65
- 47 公方様御生害の事……………65
- 48 一乗院殿佐々木承禎朝倉御憑み叶はざる事……………67
- 49 信長御憑み御請けの事……………69
- 50 信長御入浴十余日の内に五畿内隣国仰付けられ、征夷將軍に備へらるるの事……………72
- 51 観世大夫、〔春大夫〕御能仕るの事……………78
- 52 信長御感状御頂戴の事……………81
- 53 卷二（永祿十二年己巳）……………83
- 54 六条合戦の事……………83
- 55 御後巻信長御入洛の事……………84
- 56 公方御構へ御普請の事……………85
- 57 御修理の事……………87
- 58 名物召置かるるの事……………87
- 59 阿坂の城退散の事……………88
- 60 大河内国司退城の事……………88
- 61 関役所御免除の事……………90
- 62 伊勢御参宮の事……………90
- 63 卷三（元龜元年庚午）……………92
- 64 常楽寺にて相撲の事……………92
- 65 名物召置かるるの事……………93
- 66 観世大夫、今春大夫立合に御能の事……………94
- 67 越前手筒山攻落さるるの事……………96
- 68 千草峠にて銃炮打申すの事……………98
- 69 落窪合戦の事……………99

- 67 たけくらべ、かりやす取出の事……99
- 68 あね川合戦の事……100
- 69 野田福島御陣の事……101
- 70 志賀御陣の事……104

卷四（元亀二年辛未）……111

- 71 佐和山城渡し進上の事……111
- 72 箕浦合戦の事……111
- 73 大田口合戦の事……112
- 74 しむら攻干さるるの事……112
- 75 叡山御退治の事……113
- 76 御修理造畢の事……116

卷五（元亀三年壬申）……117

- 77 むしやの小路御普請の事……117
- 78 交野へ松永取出仕り候、追払はるるの事……118
- 79 奇妙様御具足初に虎後前山御要害の事……119
- 80 味方が原合戦の事……123

卷六（元亀四年癸酉）……125

- 98 高天神城小笠原与八郎謀叛の事……156
- 99 黄金家康公へ進ぜられ候事……157
- 100 河内長島一篇仰付けらるるの事……157
- 101 樋口夫婦御生害の事……160
- 102 御名物召置かるるの事（本文無し）……162

卷八（天正三年乙亥）……163

- 103 御分国道作仰付けらるる事……163
- 104 公家領徳政にて仰付けられ候事……165
- 105 河内国新堀城攻干さる、並に菅田城破却の事……165
- 106 三州長篠御合戦の事……167
- 107 山中の猿御憐愍の事……170
- 108 禁中に於て親王様御鞠遊ばさるるの事……171
- 109 越前御進発、賀越两国仰付けらるるの事……175
- 110 大坂三軸進上の事……183
- 111 御茶の湯の事……183
- 112 信長御昇殿の事……185
- 113 武田四郎岩村にて勝利を失ふの事……186
- 114 菅九郎殿岩村御存分に仰付けらるるの事……186
- 115 菅九郎殿御位の事……187

- 81 松永多門城渡し進上、付不動国行……125
- 82 公方様御謀叛、付十七ヶ条……126
- 83 石山今堅田攻められ候事……131
- 84 公方様御構へ取巻の上にて御和談の事……132
- 85 百濟寺伽藍御放火の事……135
- 86 大船作らせられ候事……135
- 87 公方様真木島に至て御退座の事……136
- 88 真木島にて御降参、公方様御牢人の事……137
- 89 大船にて高島御働き、木戸田中西城攻めらるる事……140

岩成討果され候事……141

- 90 阿閉謀叛の事……141
- 91 阿閉謀叛の事……141

卷七（天正二年甲戌）……152

- 92 義景、浅井下野、浅井備前三人首御肴の事……152
- 93 前波生害、越前一揆蜂起の事……153
- 94 明智の城いばさま謀叛の事……153
- 95 蘭奢待切捕らせらるるの事……154
- 96 佐々木承禎石部城退散の事……155
- 97 賀茂競馬御馬仰付けらるるの事……155

卷九（天正四年丙子）……188

- 116 御家督御譲りの事……187
- 117 安土御普請の事……188
- 118 二条殿御構へ御普請の事……189
- 119 原田備中御津寺へ取出し討死の事……189
- 120 御後卷再三御合戦の事……190
- 121 西国より大船を催し、木津浦船軍歴々討死の事……193

安土御普請首尾仕るの事……194

- 122 御官を進められ御衣御拝領の事……199
- 123 三州吉良御鷹野の事……199
- 124 三州吉良御鷹野の事……199
- 125 卷十（天正五年丁丑）……200
- 126 雑賀御陣の事……200
- 127 内裡御築地の事……203
- 128 御名物召置かるるの事……204
- 129 二条御新造御移徙の事……205
- 130 近衛殿御方御元服の事……205
- 131 柴田北国相働きの事……205

131 松永謀叛、並に人質御成敗の事……………205

132 片岡城攻干さるる事……………207

133 信貴城攻落さるるの事……………207

134 中将信忠御位の事……………208

135 御鷹山獵御参内の事……………209

136 但馬播磨羽柴申付けらるるの事……………210

137 三州吉良御鷹野の事……………211

138 中将信忠へ御名物十一種参らせらるる事……………211

卷十一(天正六年戊寅)……………214

139 御茶湯の事……………214

140 御節会の事……………216

141 回祿御弓衆御折檻の事……………217

142 磯野丹波、磯貝新左衛門の事……………217

143 相撲の事……………218

144 高倉山西国陣の事……………219

145 洪水の事……………220

146 播磨神吉城攻めの事……………222

147 九鬼大船の事……………224

148 小相撲の事……………225

149 大船堺津にて御見物の事……………228

150 越中御陣の事……………230

151 荒木摂津守逆心を企つ、並に伴天連の事……………230

152 安部二右衛門御忠節の事……………236

153 丹波国波多野館取巻の事……………238

卷十二(天正七年己卯)……………239

154 摂津国御陣の事……………240

155 京都四条こゆい町糸屋後家の事……………242

156 二条殿、烏丸殿、菊庭殿、山科右衛門督殿、  
嗟峨策彦、武藤弥平(兵)衛病死の事……………244

157 法花浄土宗論の事……………245

158 丹波国波多野兄弟張付の事……………251

159 赤井悪右衛門退参の事……………253

160 荒木伊丹城妻子捨て忍び出づるの事……………255

161 常見檢校の事……………256

162 宇治橋取懸くるの事……………257

163 北畠中将殿御折檻状の事……………257

164 人売りの事……………259

165 謀書の事……………259

166 伊丹城謀叛の事……………259

167 氏政甲州表へ働きの事……………260

168 伊丹の城に之在る年寄共、妻子兄弟置捨て退出の事……………261

169 親王様二条御新造へ行啓の事……………263

170 やはた八幡空(宮)造営の事……………268

171 伊丹城相果し、だし御成敗の事……………269

卷十三(天正八年庚辰)……………281

172 播州三木落居の事……………281

173 無刃の事……………288

174 大坂退散御請け誓紙の事……………291

175 能登加賀両国柴田一篇申付くる事……………292

176 阿賀の寺内申付くるの事……………294

177 本門跡大坂退出の事……………296

178 八幡御造営の事……………296

179 因幡伯耆両国に至つて羽柴発向の事……………297

180 大坂退散の事……………298

181 宇治橋御見物の事……………302

182 佐久間、林佐渡、丹羽右近、伊賀伊賀守の事……………302

183 賀州一揆歴々生害の事……………308

184 遠州高天神、家康御取巻の事……………308

卷十四(天正九年辛巳)……………309

185 御爆竹の事……………309

186 御馬揃の事……………312

187 高天神干殺し歴々討死の事……………321

188 和泉卷尾寺破滅の事……………325

189 能登国年寄共生害の事……………328

190 因幡国鳥取城取詰めの事……………328

191 八月朔日御馬揃の事……………331

192 高野聖御成敗の事……………333

193 能登越中城々破却の事……………334

194 伊賀国三介殿仰付けらるる事……………334

195 伊賀国信長御発向の事……………337

196 因幡国鳥取果口の事……………338

197 伯耆国南条表発向の事……………339

198 淡路島申付けらるるの事……………340

199 悪党御成敗の事……………341

200	御出仕の事……………343	218	御国わりの事……………365
201	御爆竹の事……………345	219	恵林寺御成敗の事……………367
202	伊勢大神空(宮)上遷空(宮)の事……………347	220	いしばさま右衛門尉御成敗の事……………368
203	紀伊州雑賀御陣の事……………348	221	信州川中島表、森勝蔵働きの事……………369
204	木曾義政忠節の事……………348	222	信長公甲州より御帰陣の事……………370
205	信州高遠の城中将信忠卿攻めらるるの事……………352	223	阿波国神戸三七御拝領の事……………377
206	家康公駿河口より御乱入の事……………354	224	家康公穴山梅雪御上洛の事……………378
207	武田四郎甲州新府退散の事……………355	225	羽柴筑前守秀吉備中国城々攻めらるる事……………378
208	信長公御乱入の事……………357	226	幸若大夫、梅若大夫の事……………379
209	武田四郎父子生害の事……………358	227	家康公、穴山梅雪、奈良、境(堺)御見物の事……………380
210	越中富山の城、神保越中居城謀叛の事……………359	228	明智日向西国出陣の事……………380
211	武田典厩生害、下曾禰忠節の事……………361	229	信長公御上洛の事……………381
212	中国表羽柴筑前働きの事……………362	230	明智日向守逆心の事……………381
213	人数備への事……………362	231	信長公本能寺にて御腹めされ候事……………382
214	木曾義政出仕の事……………363	232	中将信忠卿二条にて歴々御生害の事……………384
215	滝川左近上野国拝領の事……………363	233	江州安土城御留守衆有様の事……………387
216	諸卒に御扶持米下さるるの事……………364	234	家康公和泉堺より引取り退かるる事……………388
217	諸勢帰陣の事……………364		

〔凡例〕…1 主要参考文献一覧……………389 主要地名一覧……………391

信長公記 巻首

〔注記〕

\*十二支で表す時刻

子の刻…24時頃、丑の刻…2時頃、寅の刻…4時頃、卯の刻…6時頃、辰の刻…8時頃、巳の刻…10時頃、午の刻…12時頃、未の刻…14時頃、申の刻…16時頃、酉の刻…18時頃、戌の刻…20時頃、亥の刻…22時頃。

\*巻首では、年月日順に記述されていない箇所がある。原文どおりの配列とした。

<sup>1</sup>尾張国かみ  
下わかちの  
事

さて、尾張国は八郡である。上の郡四郡<sup>1</sup>は、織田信安が諸侍を配下に從えて、意のままに支配し、岩倉という所に居城を構えていた。残り半国の、下の郡四郡は、織田達勝の指揮下にあった。上郡と下郡とは川を隔てていて、清洲の城に武衛様を据え、織田達勝も城中に居て輔佐<sup>2</sup>していた。

織田達勝家中に三人の奉行が居た。織田因幡守、織田藤左衛門、織田信秀殿、この三人が、もろもろの政務を執り行っていた。織田信秀殿は尾張の国境近くの勝幡<sup>3</sup>という所に居城を構えていた。家系には、西巖<sup>4</sup>、月巖<sup>5</sup>、そして当代の信秀殿、御舎弟の信康殿、信光殿、信実殿、信次殿が居た。代々武勇の誉れ高い家柄である。信秀殿はとりわけ才知に長けた人物で、諸家中の、物事に堪能な人を親友とし、味方に付けた。

あるとき、信秀殿は国中の那古野を訪れ、堅固な城郭を築くよう命じた。嫡男織田吉法師殿に、一長に林秀貞、二長に平手政秀、三長に青山与三右衛門、四長に内藤勝介を付き添わせ、台所の賄いには、平手政秀を当てた。吉法師殿は学識が不足していたので、天王坊<sup>6</sup>という寺へ通った。信秀殿は那古野の城を吉法師殿へ譲り、熱田の隣郷、古渡<sup>7</sup>という所へ新城を築き、自身の居城とした。台所の賄いは山田弥右衛門であった。